

◎ 同盟通信社第拾壹回社員總會議事錄

昭和拾九年六月貳拾六日午後零時四拾分ヨリ東京都麹町區内幸町壹丁目壹番地帝國ホテルニ於テ當社第拾壹回通常社員總會ヲ開催ス

總社員	八拾五名
此ノ表決權	八千壹百四拾票
出席社員	六拾七名
此ノ表決權	七千五百五票

社長古野伊之助議長席ニ着キ開會ヲ宣シ昭和拾九年六月六日附第拾壹回通常社員總會招集通知書ニ記載セル事項ニツキ議事ニ入ルベキ旨ヲ告グ

法人 同盟通信社

一、理事補缺選舉ノ件

議長ハ定款第貳拾壹條第壹項第貳號ニ依ル理事林政武氏（北國新聞社）ハ昭和拾九年六月六日 辭任
郎氏（神戸新聞社）ハ昭和拾九年五月十四日死亡サレタルヲ以テ定款第貳拾參條第貳項ニ基キ補缺選舉スベキ處前記二理事ハ何レモ任期ノ途中ニアリ前例ニヨリ夫々ノ社ノ後任代表者嵯峨保二氏（北國新聞社）阪口覺氏（神戸新聞社）ヲ殘存期間中後任理事ニ推薦シタキ旨ヲ諮リ滿場一致可決確定シタリ

二、監事補缺選舉ノ件

定款第貳拾八條ニ依ル監事福田恭助氏（東京新聞社）ハ昭和拾八年拾貳月貳拾參日辭任サレタルヲ以テ補缺選舉

三子削リ
五字加入

スベキ處前記同様任期ノ途中ニアリ後任代表者遠藤柳作氏（東京新聞社）ヲ殘存期間中後任監事ニ推薦シタキ旨ヲ諸リ全員畢議ナク贊成セリ

三、定款改正ノ件

議長ヨリ定款第四條改正ノ説明ヲナシ「本社ハ主タル事務所ヲ東京市ニ置ク」トアルヲ「本社ハ主タル事務所ヲ東京都麹町區ニ置ク」ト改正スルコトニ滿場畢議ナク可決確定シタリ次デ議長ハ第四、第五、第六號各議案ヲ報告スベキ旨ヲ告グ

四、昭和拾八年度事業及決算報告ノ件

議長ヨリ昭和拾九年六月貳拾六日開催ノ第廿九回理事會

社 團 法 人 同盟通信社

ニ於テ承認ヲ得タル昭和拾八年度決算ノ内容ニツキ詳細説明シタリ

五、昭和拾九年度豫算報告ノ件

議長ヨリ昭和拾九年參月貳拾四日開催ノ第廿八回理事會ニ於テ承認ヲ得タル昭和拾九年度豫算内容ヲ詳細ニ説明シタリ

六、諸般ノ報告

- 議長ヨリ昭和拾八年度中ニ於ケル事業概況中主ナルモノ
- (イ) 社員新聞社ノ異動
 - (ロ) 職制ノ變更
 - (ハ) 支局ノ新設

(二) 郷軍同盟分會ノ設立
 (三) 同盟印刷工場ノ設置
 (四) 外電ノ増加
 (五) 對外電信同報用無線電台増設
 (六) 文字電送機
 ノ諸件ニツキ詳細説明シ更ニ第廿九回理事會ニ於テ承認
 ラ得タル本社顧問ニ
 光永星郎 小森七郎 田中都吉
 正力松太郎 緒方竹虎
 ノ五氏ヲ推薦シタル旨ヲ報告セリ

社団法人 同盟通信社

終ツテ議長ハ第拾壹回通常社員總會ノ議事ハ全部終了セル旨
 ヲ告ゲ午後壹時參拾分閉會ヲ宣ス
 右會議ノ要領ヲ記シ左ニ署名捺印ス

昭和拾九年 月 日

議長 古野伊之助

出席社員 高石重五郎

出席社員 速原植化

秘

昭和十九年度一般會計收支豫算

收 入 之 部		支 出 之 部	
新聞通信收入	5,363,220.-	總 體 費	1,540,180.-
經濟通信收入	3,492,960.-	本 社 費	4,161,240.-
海外通信收入	10,591,840.-	國內支社局費	4,071,740.-
通信外諸收入	876,480.-	海外總支社局費	6,332,880.-
寫真部收入	920,100.-	國內電信電話費	1,152,240.-
出版部收入	1,037,400.-	海外電信電話費	3,124,900.-
		寫真部支出	1,013,220.-
小 計	22,282,000.-	出版部支出	917,400.-
當期缺損金	31,800.-		
計	22,313,800.-	計	22,313,800.-

昭和十九年度兩方通信特別會計收支豫算

收 入 之 部		支 出 之 部	
通信諸收入	7,449,900.-	總 體 費	1,684,980.-
通信外諸收入	225,600.-	總支社局費	4,512,600.-
		電信電話費	1,500,120.-
小 計	7,675,500.-		
當期缺損金	22,200.-		
計	7,697,700.-	計	7,697,700.-

昭和十八年度事業及會計報告書

法人團

同盟通信社

一、昭和十八年度

（自昭和十八年四月一日
至昭和十九年三月卅一日）

事業報告

本期ハ大東亞戰爭第三年ヲ迎ヘテ戰況頓ニ悽愴熾烈トナリ愈々決戰段階ニ到達セルヲ思ハシムルモノアリ。即チ物量ヲ恃メル敵ハ即戰即決ヲ企圖シ執拗ナル反攻ヲ以テ我ガ外線ヲ衝キ將サニ内線ニ迫ラントス。皇軍ハ、隨所ニコレヲ邀ヘテ勇戰克クソノ企圖ヲ擊碎シ、國內亦舉ゲテ戰力增強ニ邁進シ、今ヤ決戰必勝ノ態勢成リ、敵ノ反攻ヲ擊破スベキ重大時局ニ直面セリ。翻テ歐洲戰局ニ於テハ獨軍ノ北阿撤退ニ次デ伊太利ノ戰列脫落アリ、コレニ乘ジテ米英ハ第二戰線ヲ呼號シツツ、武力ニ交ユルニ謀略ヲ以テシ戰爭ヲ短期ニ終結セント焦慮セリ。獨軍ハ東部戰線ヲ縮少シ、國內防備ヲ充實シテコレニ備ヘ、敵ノ歐洲侵攻上陸ヲ俟ツテ一舉ニ輸贏ヲ決セントス。戰局ハ東西相應ジテ重大化シ情勢ハ著シク緊迫シツツアリ。

コノ時ニ方リ國際思想戰亦極度ニ激化シ、交戰各國ハソノ全機能ヲ舉ゲテ思想宣傳戰ニ奔躍ス。惡竦陰險ナル米英ノ宣傳謀略ガ遂ニ伊太利ヲ崩壞セシメタルハソノ顯著ナル事例ニシテ、刻下強力ナル思想戰遂行ノ極メテ緊要ニシテ、報道使命ノ重大ナル痛感セザルヲ得ズ。我國ノ國家代表通信社タル我社ハコノ重大ナル使命ヲ體シ、思想決戰ノ全面的措置ヲ講ジ全社總進撃ノ態勢ヲ整ヘ來リタリ。即チ昭和十九年一月職制ヲ改正シテ本社ノ五局三十五部ヲ五局二十六部ニ改メテ戰時下事務ノ簡素能

率化ヲ圖リ、國內ニ於テハ通信ノ迅速普及特ニ非常時ニ於ケル通信ノ安全確保ノタメ國內無線同報施設ヲ急速ニ擴充シ、今期中ノ新設十四、總數六十六支局ニ達シ、全國各道府縣洩レナク普遍化スルニ至レリ。又大東亞ニ於テハ南方占領諸地域内ノ要所ニ逐次支局ヲ増置シテ通信網ヲ擴充スルト共ニ、昭南ニ南方總社ヲ設ケテコレヲ統轄セシメ、南方各地域ノ通信交流及ビ現地ヨリノ對外對敵電信同報ヲ開始シ、以テ南方ノ作戰及ビ建設ニ協力シツツアリ。更ニ支那ニ於テモ亦南京ニ中華總社ヲ新設シテ全支ノ報道ノ統一強化ヲ圖リタリ。

世界情勢ノ報道蒐集ハ我社ノ使命ニ鑑ミ特ニ努力ヲ傾注セル所ニシテ、開戰以來在外支局、特派員ヲ初メアラユル通信施設ヲ以テ世界全域ノ報道蒐集ニ遺憾ナキヲ期シツツアルガ、歐洲戰局ノ發展ニ伴ヒ外電ノ受信量ハ飛躍的ニ増加シ、戰時下世界ノ動向、特ニ窺知困難ナル諸敵國ノ情勢ニ關シテ豐富ニシテ適正ナル報道資料ヲ提供シツツアルハ汎ク認メラル所ナリ。

我社ノ總力ヲ擧ゲテ蒐集セルコレ等内外ノ資料ハ元ヨリ通信トシテ社員新聞社、放送局等ニ頒布セル所ナルモ、諸種ノ事情ニヨル未發表ノモノ内ニハ國家施策及作戰ノ參考トシテ重要ナルモノ尠カラズ。依テ昭和十九年一月本社ニ戰時調査室ヲ特設シ、コレ等ノ資料ヲ整理檢討スルトトモニ、適宜關係當局ニ提供シテソノ參考ニ資シツツアリ。

對外思想戰トシテ最も重要ナル對外電信同報ハ世界戰局ノ緊迫ト共ニ益々ソノ威力ヲ發揮シ、東京

ヨリ全世界ニ向ツテ放送スル報道ハ日々約六萬語ノ多キニ及ビ、之等ハ樞軸國及中立國ハ勿論敵國ニ於テモ特ニ異常ナル關心ヲ以テ受信シ居レル所ニシテ、依テ内部ニ敵ノ謀略宣傳ヲ粉碎シ、又敵國民ノ戰意ヲ動搖セシメ、以テ作戰ニ寄與スル所少カラザルモノアリト信ズ。

本期中ノ重要事項左ノ如シ。

一、役員ノ異動

昭和十八年四月廿日 松本重治氏（海外局長）鷹嘴壽氏（聯絡局長）ハ夫々常務理事ニ就任。

同 六月廿五日 末光正人氏（關門日報社）原田棟一郎氏（神戸新聞社）木下猛氏（鹿兒島

日報社）ハ夫々定款第二十一條第一項第二號ニ依ル理事ニ就任。

同 十月六日 理事林政武氏（北國新聞社）死亡。

同 十二月十五日 理事小森七郎氏、同築田欽次郎氏、同清水順治氏、同關正雄氏（以上日本

放送協會）ハ何レモ辭任、定款第二十一條第三項ニ依リ後任理事トシテ下

村宏氏、矢野眞氏、西邨知一氏、矢部謙次郎氏（以上日本放送協會）就任。

同 十二月十五日 常務監事古賀傳吉氏（日本放送協會）辭任。定款第二十八條ニヨル後任常務

監事トシテ築田欽次郎氏（日本放送協會）就任。

同 十二月廿三日 監事福田恭助氏（東京新聞社）辭任。

一、社員總會

本期中開會スルコト左ノ如シ。

昭和十八年六月二十五日第十回通常社員總會

一、理事會

本期中開會スルコト左ノ如シ。

昭和十八年六月二十五日 第二十七回理事會

昭和十九年三月二十四日 第二十八回理事會

一、本期末ニ於ケル社員數

前期末即チ昭和十八年三月三十一日現在ニ於ケル社員數ハ八十七社三協會ナリシ處其ノ後合併、廢刊等ニヨツテ退社シタルモノアリシタメ昭和十九年三月三十一日現在社員總數ハ八十二社三協會ナリ。

一、本期末ニ於ケル社員以外ノ通信購讀者數

	内地	支那、南方其他	計
時事通信	七、〇〇六	七〇七	七、七一三
經濟通信	七、七二四	一、五六二	九、二八六

計

一四、七三〇

二、二六九

一六 九九九

一、職制變更

昭和十九年一月一日

本社ノ機構ヲ簡素化シテ五局三十五部ヲ五局二十六部ニ改メ本社ニ戰時調査室ヲ設ケ又支那全域ヲ管轄スベキ中 總社ヲ南京ニ、南方全域ヲ管轄スベキ南方總社ヲ昭南ニ夫々設置ス

一、國內支局ノ新設

小倉支局	(昭和十八年五月)
舞鶴支局	(同上)
咸興支局(朝鮮)	(同 八月)
岐阜支局	(同 十月)
福島支局	(昭和十九年一月)
水戸支局	(同 二月)
新義州支局(朝鮮)	(同 上)
宇都宮支局	(同 上)
松江支局	(同 上)

一、海外支局ノ新設

山口	支局	(同)	上
鳥取	支局	(同)	上
浦和	支局	(同)	上
前橋	支局	(同)	上
千葉	支局	(同)	上
奈良	支局	(同)	上
大津	支局	(同)	上
シシガラジャ支局 (昭和十八年五月)			
メナド	支局	(同)	上
ブキチンギ	支局	(同)	上
ポンチャナク	支局	(同)	十月
コタラジャ	支局	(同)	十二月
パダン	支局	(昭和十九年一月)	
タイピン	支局	(同)	二月

一、國內支局ノ廢止

パラオ支局 (同) 三月

一、郷軍同盟分會設立

時局ニ鑑ミ他ニ卒先シ昭和十八年五月五日帝國在郷軍人會同盟分會(職域分會)ヲ設立セリ。

一、同盟印刷工場ノ新設

昭和十九年一月同盟印刷工場ヲ新設シ通信ノ活版印刷化ヲ創始セリ。

一、外電ノ増加

中立國中漸次反樞軸ニ傾クモノアリテ材料蒐集困難トナリ居レルガ舊締盟社ノ電信同報及ビ在中立國ノ特派員ヲ動員シテ外國情報ノ蒐集ニ努メ毎日九萬語乃至十萬語ヲ接受シツツアリ。

一、對外電信同報用無電臺増設

昭和十八年十一月二十キロ無電送信機一臺ヲ増設シ發信語數ヲ増加セリ。現在對外同報發信機ハ六臺ヲ有ス。

一、文字電送機完成

過去十ヶ年ニ亘リ研究ヲ續ケタル文字電送機ハ昭和十九年一月完成シ實地試驗中ナルガ成績良好

ナルヲ以テ近ク實用ニ供スル豫定ナリ。

一、市外専用電話線ノ變更

京都、大阪、神戸間市外専用電話線ハ昭和十九年三月十日ヨリ京都、大阪間ニ變更ス。

東京、大阪間及大阪、福岡間市外専用電話線（専用二番線）ハ昭和十八年三月三十一日限り廢止ス。

一、同報無線受信支局増設

國內同報無線施設ハ非常時對策トシテ前年ヨリ擴充中ナリシガ緊急事態ニ應ズルタメ本年初頭ヨリ未設縣廳所在地ニ工事ヲ進メ三月末日完成セリ、本期中ノ新設左ノ如シ。

小倉支局、岐阜支局、福島支局、水戸支局、宇都宮支局、山口支局、鳥取支局、浦和支局、前支局、千葉支局、奈良支局、大津支局、松江支局、下關支局

二、昭和十八年度

（自昭和十八年四月一日至昭和十九年三月卅一日）

會計報告

(イ) 貸借對照表

(昭和十九年三月三十一日現在)

資 産 之 部		負 債 之 部	
現 金	五八二五四	預 計 保 證 金	三、九七五五〇
銀 行 預 金	一、一〇一、〇一七八三	假 拂 電 信 料	六二七、三四八八二
諸 預 金	二、二二二七二	未 拂 諸 經 費	四三四、九五三九八
所有 有 價 證 券	七〇七、八一六〇〇	未 經 過 通 信 料	一、五三八、五八七四二
保 證 有 價 證 券	一二七、九七六一五	後 借 入 金	七七九、三七三九五
保 證 金	六一、七六九六六	後 期 繰 越 金	三、八八五、九二五九四
國內支社局手持現金	七八、五五五三八		一二三、四六二九〇
海外總支社局手持現金	一、三一〇、三六七二二		
諸 通 信 社 立 替 金	一六三、五八九九七		
未 收 社 員 分 擔 金	一八九、五八〇〇〇		
未 收 諸 通 信 料	五〇、三〇四七五		
諸 未 收 金	一〇、六五七〇〇		
假 拂 金	八六五、九八一七〇		
諸 立 替 金	四二八、三〇四七〇		
什 器 及 備 品	三八九、八七六一〇		
家 屋	八四四、六四二五〇		
土 地	六五〇、九二二二一		
事 業 權	三六八、三二五〇〇		
南方通信特別會計	四一、一三七〇八		
計	七、三九三、六二八五一	計	七、三九三、六二八五一

(口) 收支計算書 (一般會計)

(自昭和十八年四月一日至昭和十九年三月卅一日)

一二

收入		支出	
部	圓	部	圓
新開通信收入	五、四六〇、二九八四〇	總體費	一、五五八、二九三一九
經濟通信收入	二、八四二、六三一八九	本社費	三、四〇八、〇七三二四
海外通信收入	八、一八二、四一九五四	國內支社局費	三、二〇五、五五四一二
通信外諸收入	六八五、八一七〇	國內電信電話費	九三三、一一六七四
寫真部收入	八七九、一五四八七	海外總支社局費	五、八三八、三〇八四一
出版部收入	一、七九〇、四五四三九	海外電信電話費	二、三七一、六九五五八
		寫真部費	九一九、六四四六三
		出版部費	一、五五二、七〇七一四
		小計	一九、七八七、三九三〇五
		當期剩餘金	五三、三七八七四
計	一九、八四〇、七七一九九	計	一九、八四〇、七七一九九

收入		支出	
部	圓	部	圓
通信諸收入	七、二九八、二六九七八	總體費	二、六三三、六三〇三一
通信外諸收入	三一〇、八四七二六	總支社局費	四、一〇八、三四九三一
小計	七、六〇九、一一七〇四	電信電話費	九〇八、二七四五〇
當期不足金	四一、一三七〇八		
計	七、六五〇、二五四一二	計	七、六五〇、二五四一二

(六) 收支計算書 (南方通信特別會計)

(二) 財產目錄

(昭和十九年三月三十一日現在)

科目	目	金額
現金		五八二、五五四
銀行預金		一、一〇一、〇一七八三
諸預金		二、二二二、二七二
所有有價證券		七〇七、八一六〇〇
保證有價證券		一二七、九七六一五
保證金		六一、七六九六六
國內支社局手持現金		七八、五五五三八
海外總支社局手持現金		一、三一〇、三六七二二
諸通信社立替金		一六三、五八九九七
未收社員分擔金		一八九、五八〇〇〇
未收諸通信料		五〇、三〇四七五
諸未收		一〇、六五七〇〇
假拂金		八六五、九八一七〇
諸立替金		四二八、三〇四七〇
什器及備品		三八九、八七六一〇
家屋		八四四、六四二五〇
土地		六五〇、九二二二一
事業權		三六八、三二五〇〇
南方通信特別會計		四一、一三七〇八
計		七、三九三、六二八五一

一三

昭和十九年六月

法社
人團

同盟通信

社

常務理事

野
伊
之

上 畠
田 山
碩 敏

義

本
重

鷹嘴

理事會會長

石眞五

同
副
會
長

田
金
次

事

同

一
力
次
郎

同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同 同

小	古	矢	矢	山	野	浦	中	高	高	田	河	荻	小	西	伊
坂	村		部	本	中	田	滿	宮	田	中		野	汀	邨	豆
武	精	野	謙						元		村	元			
一			次	實	楠	芳	義	太	三	清		太	利	知	富
雄	郎	眞	郎	一	吉	朗	親	平	郎	文	徹	郎	得	一	人

右審査候處相違無之候也

常務監事

同 同 同 同 同 同 同 同 同

築田欽次郎

杉末東下光木北東小

山 光口 永 野 柳
正 眞 眞 吉 季 調

榮人平宏三猛内彦平

